



2019年9月20日

各位

会社名 第一工業製薬株式会社
 代表者名 代表取締役会長兼社長 坂本 隆司
 (コード番号 4461)
 問合せ先 常務取締役財務本部長 浦山 勇
 (TEL 075-323-5955)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の動向を踏まえ、2019年4月25日に公表した2020年3月期第2四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年9月30日）の業績予想を修正しましたのでお知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

2020年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正（2019年4月1日～2019年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	31,000	2,200	2,100	1,400	137.78
今回修正予想（B）	30,600	1,600	1,500	950	93.50
増減額（B-A）	△ 400	△ 600	△ 600	△ 450	
増減率（%）	△ 1.3	△ 27.3	△ 28.6	△ 32.1	
（ご参考）前期第2四半期実績 （2019年3月期第2四半期）	29,438	2,063	2,006	1,239	122.08

修正の理由

売上高は、前回の発表予想に対して1.3%減少する見込みです。長引く米中貿易摩擦の影響が出始め、当社の商品需要も若干ながら減退しています。

損益面では、純利益が32.1%の大幅な減益となる見通しです。需要が一段と強くなり、顕著に増収を続けるIT・電子用途の光硬化樹脂用材料の暫定的増産体制が主因です。フル稼働でもカバーできない供給対応のための増産分のコストアップがかさみました。中東情勢の緊迫をはじめ原料価格の高騰も利益の圧迫の要因となっています。なお、需要の旺盛な光硬化樹脂用材料の初期投資の2.4倍となる増強投資は8月に着工しました。業績貢献が期待できる設備投資は計画通り行います。

通期の連結業績の予想につきましては、政治経済環境の影響を精査しています。米中貿易関係、また、地政学的懸念から生じる下期の不透明感は軽視できません。今後の業績の動向を注視し、修正が必要と判断した場合には速やかにお知らせする予定です。

※業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上